

学校だよりNo.44

令和3年1月21日(木)

泉崎村立泉崎中学校

白 樺

発行責任者 校長 桑原 透

泉崎中スローガン

- 1 明るく元気なあいさつ
- 2 健康・安全
- 3 「自他共栄」
- 4 「一歩改革」

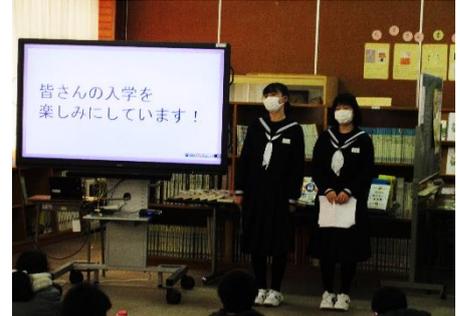
目指す学校像

- 1 安全で安心して生活できる学校
- 2 生徒・教師が楽しめて「今日も来てよかったなあ」と思える学校
- 3 生徒が主体となって活動し、明るく活気のある学校
- 4 学校・保護者・地域が連携し、共に成長していく学校
- 5 保護者や地域から信頼される学校

新入生見学会・保護者説明会

19日(火)に来年度入学予定の新入生中学校見学会と保護者説明会を行いました。

6年生は11月に中学校説明会に参加し、本校の2年生により、中学校生活について実演を交えて紹介されました。今回は生徒会役員が1年間の主な行事などの予定や生活の約束やルール、やらなければならないことなどについて説明しました。その後授業を見学し、最後に部活動を見学しました。保護者説明会では、入学前に準備しなければならないことや、中学校生活の色々について、教師が説明しました。



私立高校入試

先週より、県内外の私立高校入試が始まっています。冬休みから私立高校を受験する生徒は、面接練習を何度も行ってきており、先週からは校長面接を行っています。今年度は新型コロナウイルスの影響で、面接試験を行わない学校もありますが、私立・県立問わず、ほとんどの学校で面接は行います。面接を受ける態度も大事ですが、特に志望動機や入学後の目標などは重要です。しっかりとした受け答えが出来るよう、普段から自分の考えや意見を言えるように、ご家庭でも練習してみてください。今週と来週の私立選抜の日程は下記のとおりです。

18日(月) 尚志高校
21日(木) 郡大附属

19日(火) 学法石川B
26日(火) 日大東北

20日(水) 帝京安積
30日(土) 学法石川C

“やまびこあいさつプロジェクト”

規律委員会は今まであいさつ運動を行っていましたが、元気のいいあいさつがあまりできていない生徒が多く、「もっと活気のある明るいあいさつを全校に広げたい。」という思いから、先日、生徒会役員と代表委員、部活動の部長、専門委員会委員長の合同会議を行いました。そして、あいさつの意義や、どうしたら全校的に元気で明るいあいさつができるようになるかについて話し合いました。その結果“やまびこあいさつプロジェクト”と命名した取り組みを実施することになりました。

具体的な内容については、まだ決まっていませんが、今後話し合いを進めて決めていくことになっています。

全校生徒が明るく元気なあいさつができるようになり、活気のある泉崎中学校になることと期待したいです。



特集! やってはいけない“脳習慣”⑯ 【上手なメディアとの付き合い方を考える】

スマホ、ゲーム、テレビなどどのメディアでも脳の認知機能や意欲、運動能力と関係するような領域が変化し、健全な脳の発達を阻害してしまうという事実に驚きを覚えた方も少なくないでしょう。しかし、だからといって私たちの生活の中にすでに溶け込んでいるこれらのメディアを子どもたちから遠ざけることはできません。「悪影響があるから使用を禁止・制限する」ということができればシンプルですが、親が子どもに制限を行っても、子どもは反発して隠れて使用するなど、親子ともストレスになりがちです。

では現実的にメディアとどのように付き合っていくべきなのでしょう。重要なことはメディアを問題視するのではなく、ここで挙げたリスクを正しく知った上で使用する、使用させることだと思います。今の楽しみが自分の脳の発達にどのような影響を与えているか、ひいては将来の自分に悪影響を及ぼすものであるかを、まわりの大人が分かりやすく説明すれば、「自分のこと」として認識できるでしょう。そうすれば、自分からメディアとの付き合い方を考え直し、上手な使い方が身につくことにつながるのではないのでしょうか。このような働きかけを行うためには、日頃から親子のコミュニケーションが非常に重要になってきます。

「スマホを持っていても、1時間未満に使用時間を抑えることが出来る子どもたちは成績が良い」という結果が出たことを思い出してください。このとき、スマホの使い方やルールを親子で話し合うなどして、コントロールする親子関係の良さが陰で影響しているのではないかと述べました。加えて、テレビやゲームなどメディアの長時間使用は、裏返せば勉強時間や家族でのコミュニケーションの時間など、それ以外の活動の時間が減ることになります。例えば「いつまでもテレビやゲームに夢中になるのはやめなさい」などと一方的に叱ったりするのではなく、親子のコミュニケーションの中に、その使用法について一緒に考えるというトピックを入れ、親側と一緒に考える姿勢を持つことも重要ではないでしょうか。

まずは、大人がメディアについての知識を理解する必要がありますね！
特集! やってはいけない脳習慣は今回で終了します。